

社会に「信任」をつくる

—地域コミュニティの基盤を支える社会教育とは—

牧野 篤

(大正大学教授／東京大学名誉教授)

「ふるさと」とは何か：

歴史・文化・偉人・物産・風土・・・・

**「ふるさと」を問うことは
私たち自身の社会における在り方を問うこと**

子どもにとって「ふるさと」とは？

**このことを考えると
社会教育の役割や
地域社会と学校とのかかわりが
新たな視点からとらえられる**

⇒住民自治とは何か

自分と社会のかかわりについて

	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
国や社会に役立つことを したいと思う	64.3	78.4	77.7	93.6	71.1	85.9
自分は責任がある 社会の一員だと思う	61.1	79.4	80.7	92.1	74.5	86.8
ボランティア活動に参加したい	60.4	76.3	68.6	89.8	70.5	79.2
慈善活動のために 寄付をしたい	58.4	78.4	79.5	87.2	66.6	84.4
自分は大人だと思う	49.6	76.6	75.8	90.0	54.8	81.7
自分の行動で、国や社会を 変えられると思う	45.8	65.6	56.1	83.7	60.8	80.6

(単位: %)

日本財団18歳意識調査結果 第62回テーマ「国や社会に対する意識（6カ国調査）」

<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2024/20240403-100595.html>

I . 問われていること

1. 語りあって当事者になる

「学び」と「人づくり」を一つなかりに

： 島根県益田市「人が育つまち」「人が輝くまち」

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場

小学生 × 高校生



「思春期」を終えた高校生から、
これから「思春期」の小学生へ

- 卒業前の高校3年生とこれから中学生の小学5-6年生によるカタリ場
- 小学生が、中学・高校生活の未来のイメージを描くことができる
- カタリ場を受けてきた高校生は、学業生活を終える最後に、自分が語り手として、小学生に語る

中学校カタリ場

中学生 × 地域の大人



「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ

- 中学校区の地域の大人と中学生によるカタリ場
- 公民館と連携をして、地域の担い手がカタリ場に参加
- 地域で会う機会があるからこそ、しっかり関係をつくり、その後の地域での活動づくりのきっかけへ

高校カタリ場

高校生 × 企業の大人



ちょっと年上の先輩と、
ちょっと先の未来を描く

- 社会人の若手や大学生と高校生によるカタリ場
- 市内企業と連携をして、若手職員がカタリ場に参加
- 住んでいる地区を超えて、多様な大人との繋がりがづくり、活動づくりのきっかけへ

地域の大人と子どもが繋がれていない現実

【気軽に話をする事ができる、
地域の大人の人数】



【益田市には魅力的な大人が多い】



→ ロールモデルとの出会いがないまま大人へ



キャリア教育、
はじめます。

子どもと大人の心に
"火"を灯す授業。

益田版

カタリ場

事業成果① 生徒が自分を肯定し、未来へ明るい希望を持てるようになった



成果1

生徒が自分を肯定し、未来へ明るい希望を持てるようになった

カタリ場を通して、自分に本気で向き合い、かつ、将来のことを地域の大人と一緒に考えることで、未来へ明るい希望を持てるようになったのではないかと考えています。

根拠1

→事前アンケートでは「将来に対して、不安がある」と多くの生徒が回答していましたが、事後アンケートでは「将来に対して明るい希望を持っている」と半数以上の生徒が回答しました。

2023年 生徒事前アンケート (回答数696)

将来に対して、不安がある

77%もの生徒が

そう思うと回答

(とてもそう思う196名+ややそう思う340名)

2023年 生徒事後アンケート

(回答数591)

カタリ場を通して
「どんな人になりたいか」
考えることができた

92%の生徒が

そう思うと回答

(とてもそう思う285名+ややそう思う261名)

将来に対して
明るい希望を持っている

74%の生徒が

そう思うと回答

(とてもそう思う159名+ややそう思う279名)

Copyright 2023 Yuta-lab. All Rights Reserved

事業成果② 生徒大人ともに益田のまちのイメージが向上した



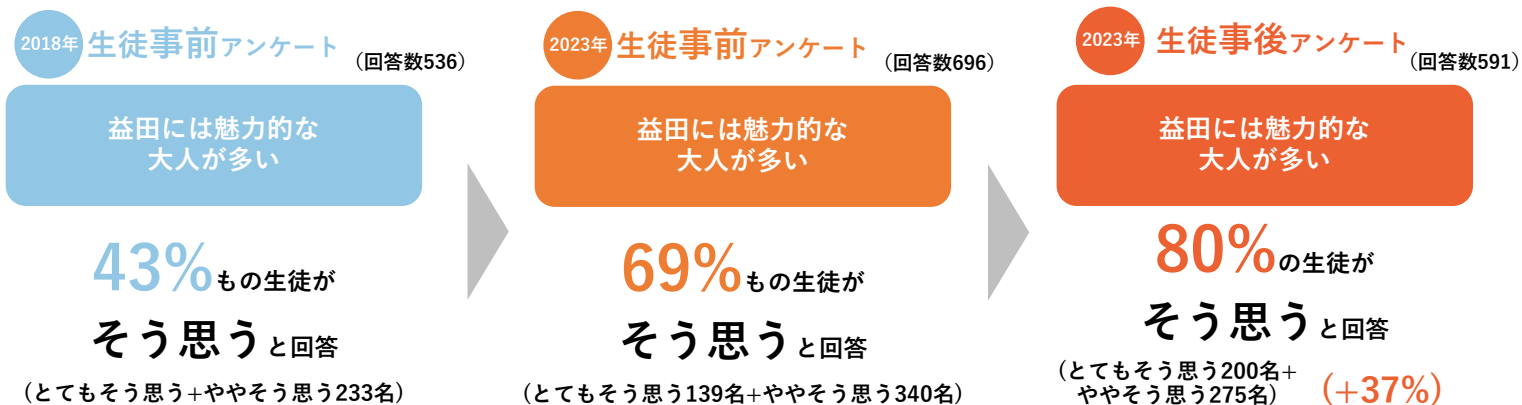
成果2

生徒大人ともに益田のまちのイメージが向上した

カтары場で地域の大人と語り合い、自分の地元で活躍している大人と出会うことで、さらに益田のまちへのイメージが高まったと考えています。

根拠1

→ライフキャリア教育の積み重ねにより、この5年間で「益田には魅力的な大人が多い」と回答した生徒の割合が大きく増加しました。



Copyright 2023 Yuta-lab. All Rights Reserved

公民館を拠点とした、中学生地域活動チーム



【北仙道地区】
陽光会



【豊川地区】
とよかわっしょい



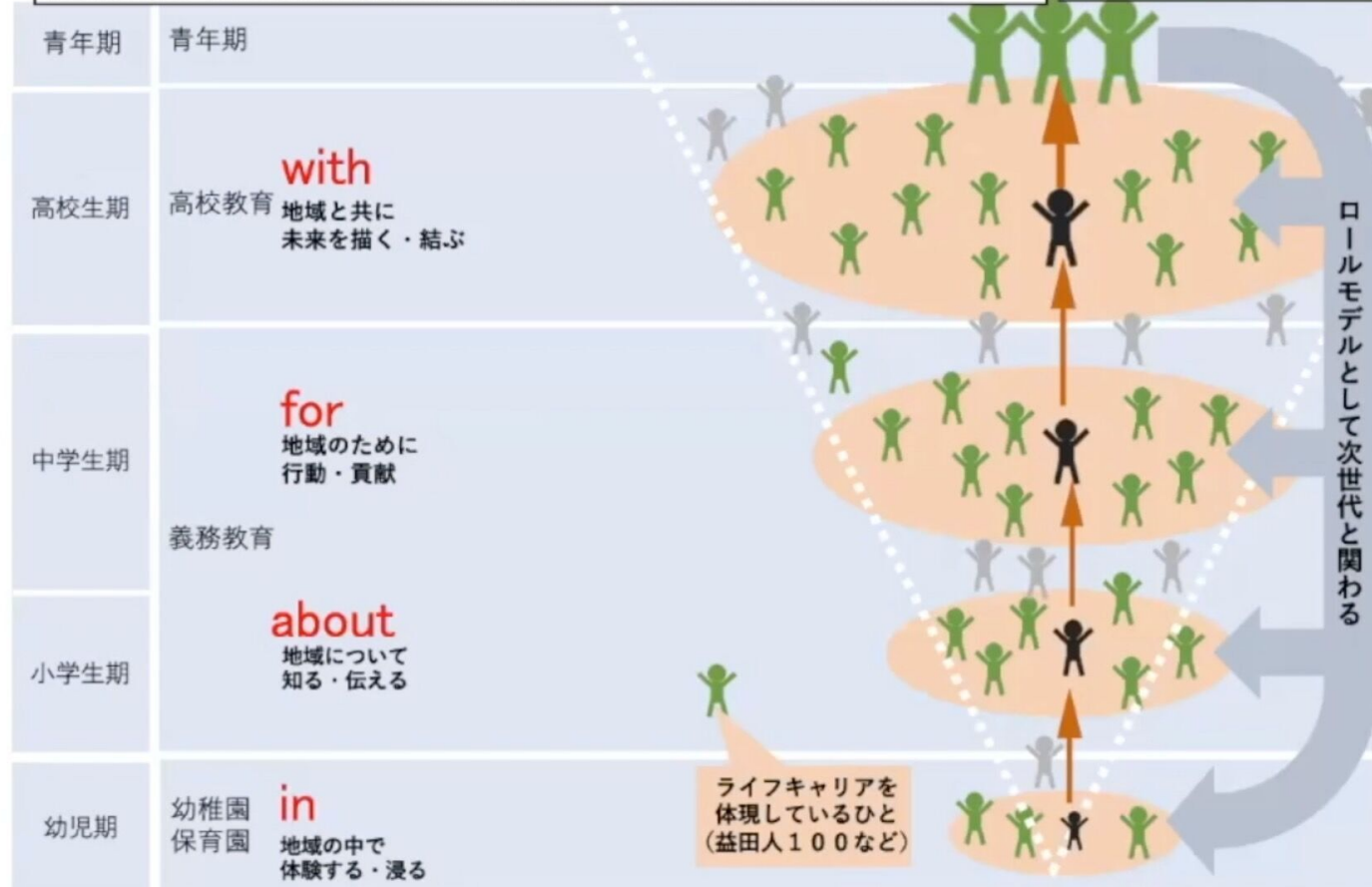
【匹見3地区】
匹中会

「益出入100」を軸としたフイフキャリア教育の流れイメージ図

○保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人100）」との出会いを位置づけるプログラム。
○子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。

【目指す姿】

○日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと



2. 標準形からの脱却を考える

(1)定年退職を考える

高齢者の認知能力の加齢に伴う変化

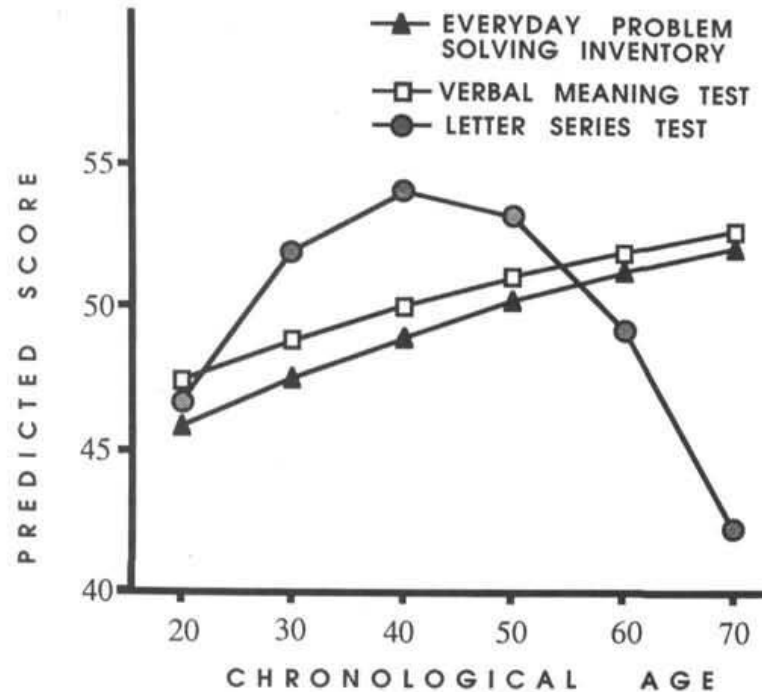


Figure 1. Regression lines displaying predicted levels of performance on ability tests as a function of chronological age. (Ability performance is measured in standardized *T* scores [$M = 50$, $SD = 10$].)

短期記憶は低下する

言語能力と日常生活問題解決能力は
伸び続ける

言語能力と問題解決能力は
人間関係に依存する

Cornelius, S. W., and Caspi, A., 'Everyday problem solving in adulthood and old age', *Psychology and Aging*, Vol2(2), Jun1987, p.150 Figure1

「使い物にならない」のは、マスとして処理できなくなるから
能力が低下するとともに、各個人が均質化＝標準型からはずれ始め、
集団的な個体として扱えなくなるから

⇐なぜ、近代資本制社会を基本とする経済システムを採用している国家は
国民教育制度を持っているのか

なぜ、国民教育制度は満7歳になる年度に一齐に入学し、年次進行で教育し、
選抜し、新卒一括採用で就職するのか

近代資本制社会は、自我＝自己意識をもった個人＝個体が基本となり、
意志を持つ存在＝帰責主体で構成されているとされる⇒「主体」

「主体」は意識することで、行為するとされる
7歳頃に自我が統合され、身体的な所作も一致し、同じ価値観・知識を持ち、
上意下達で集団的な行動が可能となる

⇒国民教育制度が行っているのは何か

(2)近代学校制度を考える

既述の「フィクション」にもとづいてつくられ、
それを強化する役割もって機能してきたのが
学校制度
⇒国民教育制度としての学校

その最たるものが、偏差値

(3)「学校化」された社会

「学校化」された社会に多様性はない

私たちは「学校化」された社会に生きている

学校：近代産業社会＝近代国民国家の制度

⇒近代国民教育制度

国民教育：国民を育成する教育制度

近代　　：資本制社会

⇒資本制を基盤とする国家の成員である国民を育成する制度



一寸子花里 文学ばんだいの宝

<https://ja.wikipedia.org/wiki/寺子屋>



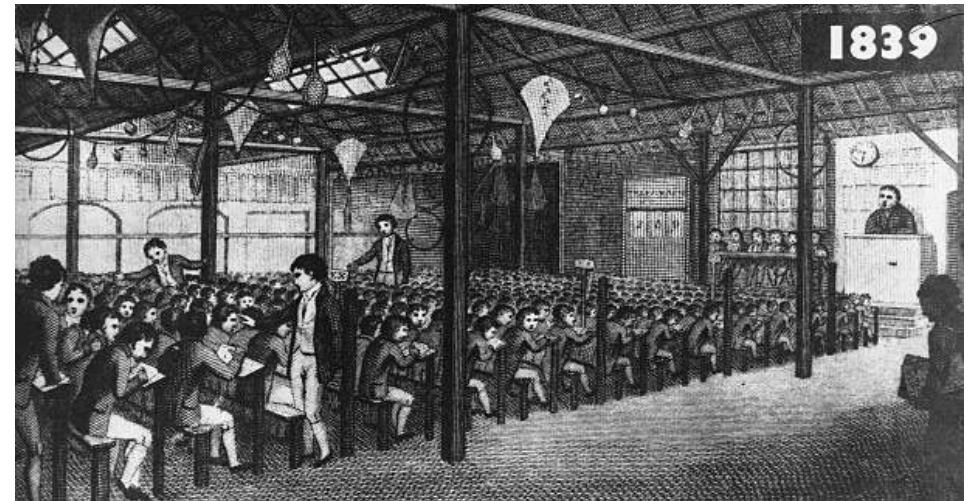
現在の小学校の教室

<http://www.ritsumeai.ac.jp/primary/life/day/>



1908年(明治41年)の教室風景

https://shibusawakeizo.jp/history/files/img_1903.html



近代イギリスのランカスター教授法のクラス
(monitorial class)

<https://ameblo.jp/sophiainu/entry-12414187239.html>

「学校化」された社会は人のプライドを奪う

**プライドを失った人々は、権威に依存する
プライドを失った人々は、クレーマー化する**

**社会が分断され、人々は孤立する
人々はいつそうプライドを失って、いがみあう**

生きることのプライドとは？

Ⅱ. 人は「かかわり」の存在

3. 人は何が大切なのか

当事者性・プライドが
ものをいう

つながり



当事者性

プライド

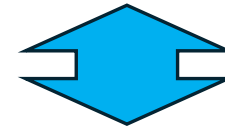
自己有用感



サービス（お客様扱い）は
当事者性・プライド・自己有用感
＝生きる意欲
を奪う暴力



問題は事件が起こる前に
起きてしまっている
それが後から露わになる



自己発見・新しい自分

Well-being

（幸せを感じられる状態にある）



問題が起こらない社会

4. 人生100年時代の到来

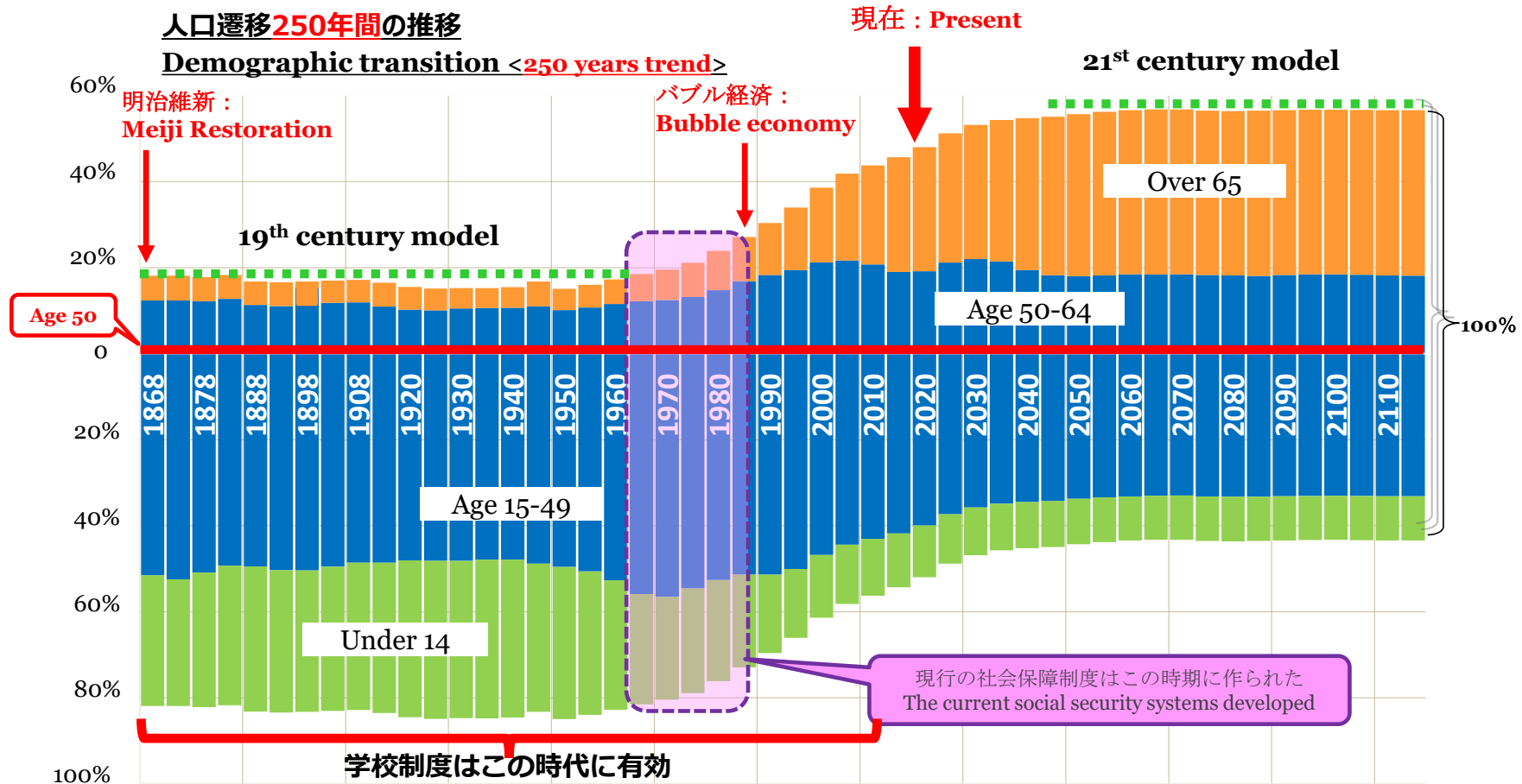
2007年生まれの子ども達の予測寿命中位数=107歳

日本人の平均寿命=男性：81歳 女性：87歳
死亡最頻年齢=男性：87歳 女性93歳
(2016年)

健康寿命=世界で最も長い

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate

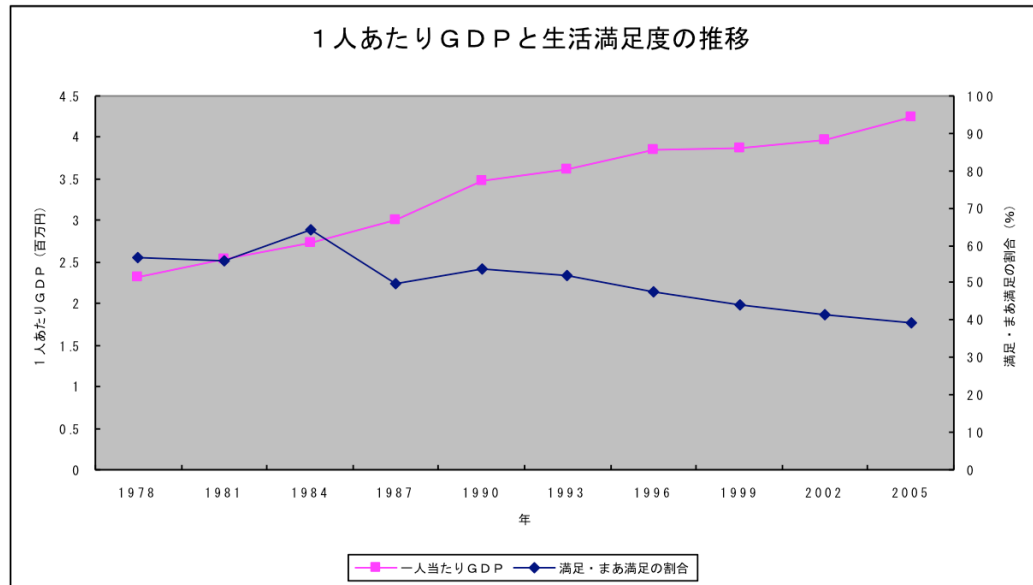
© T Hasegawa RIFH. Japan

UN Estimate2017

5. 質的多様性の時代

⇒「幸福感」の変化

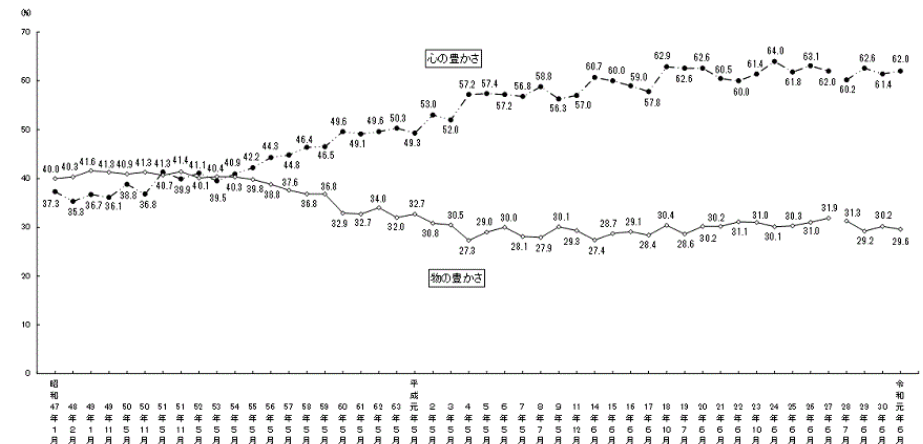
イースタリンの逆説



https://www.ishes.org/project/responsible_econ/happiness_econ/paradx_happiness.html

これから心の豊かさの時代

図21-2 これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか (時系列)



(注1) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさをとりのある生活をするに心がけたい」
 物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに心がけたい」
 (注2) 平成27年6月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。平成28年7月調査から18歳以上の者を対象として実施。

内閣府「国民生活に関する世論調査」(令和元年6月)
<https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-life/zh/z21-2.html>

しかも、日本社会は1980年代半ばに、
すでに「質的多様性」の社会に入っている

- ⇒ * 学校における個性尊重教育への転換の試み
 - * 臨時教育審議会（1984年～87年）による
学歴社会から学習社会への転換提言
 - * ゆとり教育の実施
（1980年代～2000年代、2011年から「脱ゆとり」）

いずれも、経済界を中心とした国民の反発で頓挫
「標準形」の「学校化」社会の観念に囚われたままだったのでは？

- ⇒ 新しい学習指導要領（2020年から）でいわゆる「第二次ゆとり」
＝「探究型のカリキュラム」へ

6. 「公共」概念の混乱

混乱

⇒結果的に、住民一人一人を行政に依存させることに
地域コミュニティの自律性を解体し、クレーマーを増やしただけ

⇒一人ひとりが生活の主人公として社会をつくっているという
プライドを毀損

人々は消費者化し、税金で行政サービスを購入する感覚に
クレーマー化する消費者住民

社会の「つながり」「かかわり」が崩れ、自治体が毀損し、生活
が不安定に

人々が分断され、孤立化が進展→「かかわり」の格差と経済格差
が相互に影響

⇒市場も分断・分散化が進み、少子高齢化・人口減少と相俟って、
企業活動が停滞

「公」の基本：
承認されることの前にある受容、受け止められること

その後で、承認が生まれることで、
「共」が生まれ出る

7. 価値の変化と生成の時代：存在欲求の時代へ

存在欲求の時代へ

いまだに所有欲求の時代の価値観で問題を立てていないか？

目標達成ではなく、持続そのものが目的となる
PDCA等のバックキャストではなく
むしろ、AAR

一方向の拡大・増大ではなく、多方向への拡散・展開
所有ではなく、存在



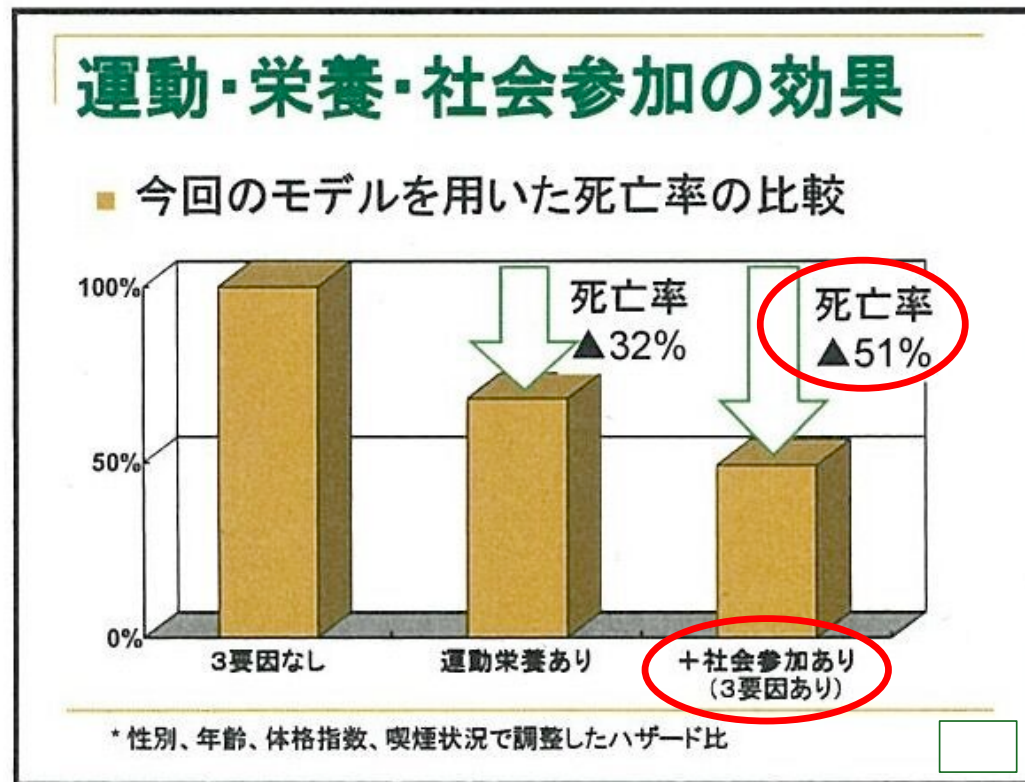
常にプロセスにある社会へ
予測困難

8. 「かかわり」が大切な社会へ

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

ボランティア活動が大学生のメンタルケアに有効 ＝メンタルヘルスにおいて自己肯定感・自尊感情を高め 首尾一貫感覚やレジリエンスを向上させる

和 秀 俊

「大学生のメンタルヘルスにおけるボランティア活動の可能性」

調布学園大学紀要 第 13 号 2018(平成 30)年度

<https://core.ac.uk/download/pdf/236372129.pdf>

高齢者のボランティア活動参加者は、非参加者に比べて、 うつ病罹患率が有意に低い

田村元樹他「高齢者のボランティアグループ傘下と個人の撃つ傾向との関連：

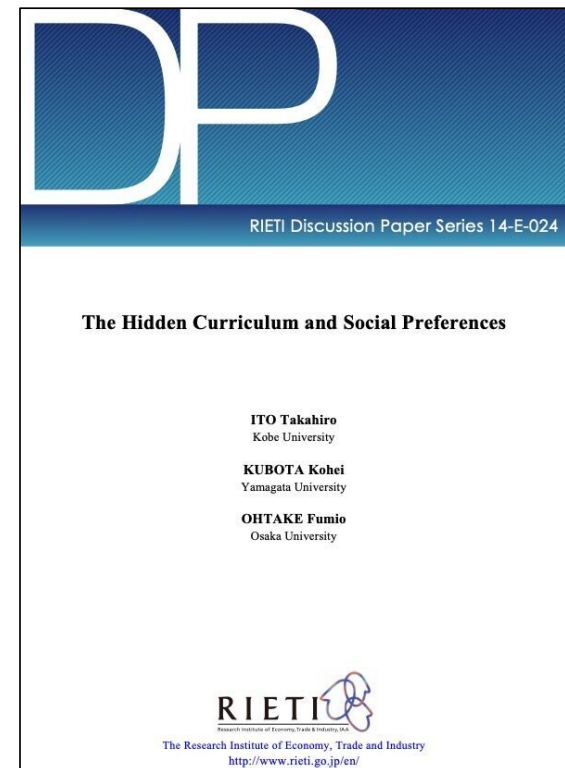
傾向スコアマッチング法を用いた3年間のJAGES縦断研究」

日本公衆衛生雑誌 J-STAGE早期公開

https://www.jages.net/kenkyuseika/paper_ja/?action=common_download_main&upload_id=12843

小学生時代にボランティアなどの
経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる

参加・協力を経験した子どもは、
他者のために行動することを好み、
利他性と互惠性が高まり、
他人への協力を好み、
国への誇りを持つようになる傾向がある



Ⅲ. 焦点化される地域コミュニティと学校

9. 焦点化される地域コミュニティと教育改革

社会に開かれた教育課程
(2015年8月中教審教育課程企画特別部会)

コミュニティ・スクール
2015年中教審答申

*** アクティブラーニング
(教員資質向上答申)**

*** チーム学校
(チーム学校答申)**

*** 地域学校協働活動・本部
(地域学校協働答申)**

学校と地域コミュニティが焦点化

第4期教育振興基本計画(2023年6月)

社会教育の概念規定の刷新：

**地域コミュニティを基盤とする社会の土台である
人と人との「かかわり」や「つながり」をつくりだし、
協力し合える関係としての土壌を耕しておく営み**



中央教育審議会 総会（2024年6月25日）

生涯学習分科会 審議の整理

社会教育人材部会 最終まとめ

⇒社会教育人材の育成と活躍の一層の促進

文部科学大臣より「社会教育の在り方」諮問

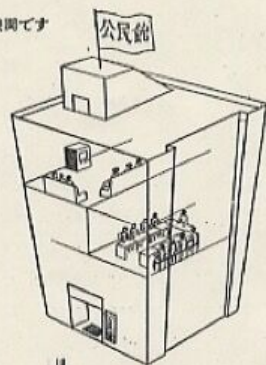
「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」

「人」(人材)を中心とした社会教育へ

10. 地域をつくる公民館・社会教育

民主的社会教育機関です

公民館は
民主的社会教育機関です



村の茶の間です
親睦交友を深める施設です

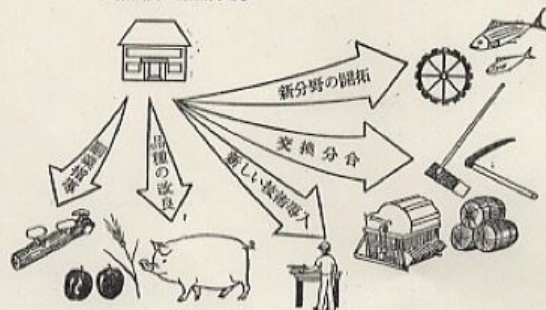
公民館は村の茶の間です

親睦交友を深める施設です



産業振興の原動力です

産業振興の原動力です



公民館とはなにか 9

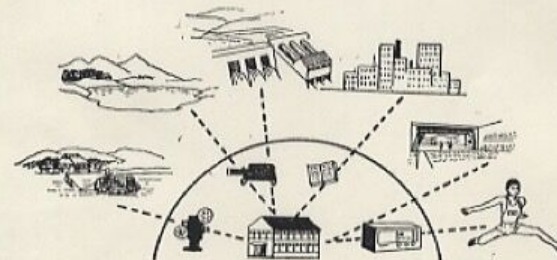
民主主義の訓練場です

公民館は
民主主義の訓練場です



文化交流の場です

文化交流の場です



郷土振興の機関です

郷土振興の機関です



公民館とはなにか 11

小和田武紀『公民館図説』、岩崎書店、1954年、9頁・11頁

⇒住民による「自治」

社会教育に「目的」はない

社会教育がしっかりしていると、「目的」が生まれる

一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

敢えていえば、

社会教育は「社会」を永続させるための営み

「自治」とは、与えられるものではなく、創り出し、
自ら行うもの

11. 社会教育の概念を問う

社会教育という概念：

学校教育との対比によって規定されてきた

社会教育は、歴史的に学校教育との対比において、
学校教育の「補足」「拡張」「代位」「以外」、さらに「移行」などと
発達形態が規定され、
また現行の社会教育法第2条には
「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、
主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動
（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう」と規定されている。



個人の要望と社会の要請が前面化して、社会において行われる教育とされる

第4期教育振興基本計画（2023年6月閣議決定）

基本コンセプト：

「持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」

**「我が国の将来を展望したとき、
教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、
一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展に向けて
極めて重要な役割を有している。」**

社会教育は、
本計画において、
改めて地域コミュニティを基盤とする社会の土台である
人と人との「かかわり」や「つながり」の土壌を耕しておく
という役割が強調され、
それが社会の持続可能性およびウェルビーイングと
結びつけられている

社会教育が土壌を耕すことで、
この社会が豊かな基盤をつくることになり、
それが防災や福祉、産業振興、文化交流など、
いわば首長部局の一般行政が有効に機能することにもつながることが指摘

少し踏み込んだいい方をすれば、
一般行政の社会教育化とでも呼ぶべき方向性が示されている

「学び」による住民自治を
社会により深く実装することが求められる時代となったとの認識

〈ちいさな社会〉をドットとして増やし、重ね合わせる
＝「ちいさなしあわせ」を重ね合わせる

12. 社会に「信任」をつくる

社会に「信任」をつくる

「ふるさと」づくりとは社会に「信任」をつくること

13. 社会教育主事・社会教育士の新たな役割

この時、社会教育「専門職」の在り方が問われる

社会教育主事

⇒ **「社会教育士」**

さらに、公民館主事という

「専門職」の在り方が問われる

いかに住民とともに歩めるのか

社会教育の裾野の広がり、社会教育人材が果たすべき役割

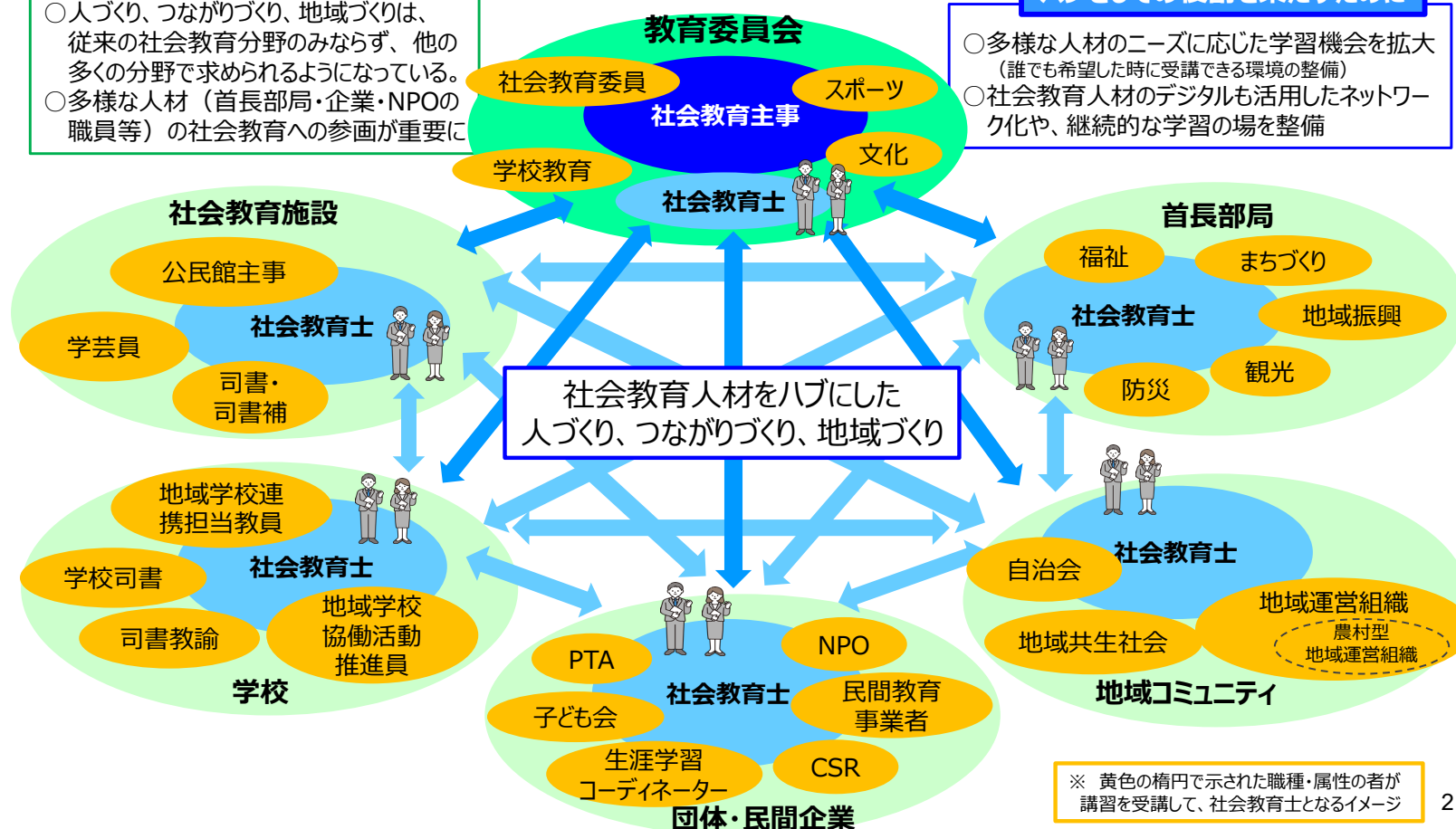


社会教育の裾野の広がり

- 人づくり、つながりづくり、地域づくりは、従来の社会教育分野のみならず、他の多くの分野で求められるようになっている。
- 多様な人材（首長部局・企業・NPOの職員等）の社会教育への参画が重要に

社会教育人材がハブとしての役割を果たすために

- 多様な人材のニーズに応じた学習機会を拡大（誰でも希望した時に受講できる環境の整備）
- 社会教育人材のデジタルも活用したネットワーク化や、継続的な学習の場を整備



**社会教育主事：様々な行政領域と社会教育(行政)を結ぶ
「地域社会全体のオーガナイザー」**

**社会教育士：それぞれの専門分野において、
社会教育的な手法を用いて活動を展開する
「専門性を様々な場に生かす学びのオーガナイザー」**

第12期生涯学習審議会社会教育人材部会「中間的まとめ」(2023年8月)